

経皮的膿瘍（けいひてきのうよう）ドレナージ：体内に貯まったウミを細い管で排出する方法

Q1. 膿瘍とは？

膿瘍とは、細菌感染などのため体内にウミが袋状にたまったものです。皮下、脳、扁桃周囲、肺、肝臓、腎臓、腸腰筋内、腹腔内、骨盤内、術後創部など全身の至る所に出現します。

Q2. 膿瘍になるとどのような症状がでますか？

発熱や疼痛の原因となります。治療が遅れると血液中に細菌が入り込み、悪寒・ふるえを伴う高熱（敗血症）が見られます。さらにひどくなると血圧低下、意識障害を起こし敗血症性ショックとなる場合もあります。

Q3. 膿瘍に対する治療法は何ですか？

軽度のものでは抗生剤の点滴にて改善することがありますが、それで改善のない場合は

ウミを体外へ排出する必要があります。排出の方法としては、外科的手術で切開排膿する方法もありますが、CTや超音波の画像を見ながら皮膚をとおして膿瘍内に細い管（カテーテル）を留置しウミを排出する方法である経皮的膿瘍ドレナージは、体にやさしく傷跡もほとんど残りません。

Q4. 経皮的膿瘍ドレナージの利点は？

- 1) 局所麻酔で行うため、全身麻酔に伴う合併症がありません。2) 手術に耐えられない重症の方にも実施可能です。
- 3) 画像を見ながら正確にカテーテル留置が出来ます。

Q5. 経皮的膿瘍ドレナージの手順は？

- 1) CT や超音波で膿瘍の位置や穿刺経路を確認し、針を刺す部位とルートを決めます。2) 穿刺部から穿刺経路に局所麻酔を行った後、CT や超音波の画像を見ながら膿瘍に針を進めます。3) 針が確実に膿瘍内に入ったことを確認後、針の芯を抜きます。中空になった針の中をガイドワイヤーという細い針金をとおし膿瘍内に進めます。
- 4) 針を抜去し残ったガイドワイヤーにカテーテルをかぶせて膿瘍内へ進めます。5) カテーテルが膿瘍内に入ったことを確認後、ガイドワイヤーを抜いてカテーテルを皮膚に糸で固定します。6) ウミが排出されなくなったら、カテーテルを抜去します。

Q6. 経皮的膿瘍ドレナージの手技に伴う合併症は何ですか？

1) 出血：穿刺経路上の小さな血管を損傷することによります。多くは軽微で自然に止血しますが、ごくまれに治療が必要になることがあります。2) 臓器損傷：膿瘍の近くにある臓器を傷つけてしまう可能性があります。3) 敗血症：わずかな病原菌が血管に混入し、悪寒やふるえ、血圧低下などをきたすことがあります。4) 腹膜炎・胸膜炎、他：ウミが周辺に漏れ、炎症が広がる可能性があります。5) 気胸（肺の虚脱）や胸水貯留：肺に針を刺す場合は発生することがあります。

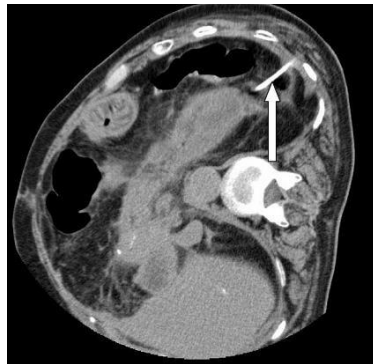


図1. 図2.
図3.

図1. 膵炎後に膵臓の周囲にできた膿瘍(矢印)です。

図2. 白く見えるのが皮膚をとおして膿瘍に留置されたカテーテル(矢印)です。

図3. 膵臓(矢印)周囲の膿瘍がなくなりました。

日本 IVR 学会 広報・渉外委員会

日本 IVR 学会 事務局

〒355-0063 埼玉県東松山市元宿 1-18-4

<http://www.jsir.or.jp/>